

奈良市月ヶ瀬梅の資料館



月ヶ瀬梅林は、紅花染に使う「烏梅(うばい)」の原料となる梅の実の収穫のため栽培され、江戸時代の最盛期には10万本を数えたといえます。20世紀に入り合成染料が普及すると「烏梅」は衰退しましたが、梅林は食用梅の栽培や観光資源に利用され、今日まで継承されてきました。

大正11年(1922)に、梅林の中核をなす約19.7haが「月ヶ瀬梅林」の名で、わが国最初の名勝に指定されました。昭和44年(1969)の高山ダムの完成で溪谷の風景は変化しましたが、名勝指定地の周囲に移植・補植で緩衝地帯を設けるなどの保護が図られ現在では27haにわたって広がる12000本の梅が、月ヶ瀬湖と調和して新たな景観を保っています。

名張川の深い溪谷と梅の木が織り成す風景は、多くの著名人の訪れるところとなり、19世紀の前半には既に、屈指の名勝地となっていました。こうした歴史の中で、月ヶ瀬梅溪を来遊した文人墨客が残した観梅にかかる書画等の資料を、当資料館で保存・展示します。



2階展示室



2階・会議室・回廊・展望台

(谷崎潤一郎の月ヶ瀬説明文)より

「名所というものはいってみると、さほどでもないところが多い。けれど昔から吉野と並び称されている月ヶ瀬の梅ばかりは、まことにその名にそむかない。いつから有名になったのかはよくしらないが、おそらく頼山陽や齊藤拙堂の詩文によって、一層著聞するようになったのであろう。あのさつき川の水をはさんで延々一里に余る溪谷に真珠の粒をばらまいたような萬朶の花の香る景色を、私は毎年早春頃になると思い出す。今年も行ったし、二、三年前にも行ったが又、来る年も、暇さえあれば何時でも行きたいと思う。」

回廊(2階)、展望台(3階)の眺望をお楽しみ下さい。

2階会議室



資料館前月ヶ瀬橋



1階情報発信コーナー



梅の情報発信コーナー

月ヶ瀬梅林の梅見スポット、イベント情報などの観光情報のほか、花も実もある名実ともに豊かな梅の郷の月ヶ瀬。種類も豊富な梅製品、また梅と並び月ヶ瀬が誇る大和茶の情報も発信します。

■開館時間

午前8:30～午後5:15

■閉館日

毎週木曜日、及び12月29日から翌年1月3日(但し梅まつり期間中は無休)

■お問い合わせ

奈良市月ヶ瀬梅の資料館

〒630-2303 奈良市月ヶ瀬長引21番地の8

TEL:0743-92-0300

FAX:0743-92-0556

<http://web1.kcn.jp/tukigase-umeno-siryoukan/>